

一般社団法人山梨県言語聴覚士会

失語症友の会「ふじやま」設立報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 内山 量史
失語症友の会「ふじやま」 運営委員長 池神 多加子

失語症友の会は、心理的サポートや自立のための情報提供などピアカウンセリングとして、また地域で生活する失語症者と言語聴覚士の交流の場として重要な役割を果たしてきました。しかし現在、NPO法人全国失語症協議会に加盟されている友の会は100団体以下と減少傾向にあり、山梨県においても活動している友の会は2団体となっています。

当会としては、失語症者の在宅生活を支える事業の強化と失語症者の地域における暮らしを支援できる人材育成を図り、職能団体として失語症友の会の運営に強力に関与する目的で、山梨県言語聴覚士会失語症友の会「ふじやま」を設立しました。

2018年7月7日(七夕)、1人ひとりの願いを込めて、失語症友の会「ふじやま」は第一歩を踏み出しました。記念すべき設立集會に当事者、家族、ケアマネジャー、学生、言語聴覚士、総勢50名が参加



れました。当日は、日頃より友の会活動に携わり失語症のある方やご家族を支えてこられた園田尚美先生(日本失語症協議会副理事長)と渡邊修先生(東京慈恵会医科大学附属第三病院リハビリテーション科診療部長)をお招きすることができました。先生方の言葉は温かく、参加者の胸に心強いエールとして響きました。その後、当事者の方々の「自己紹介」— ①名前を書いて名札を作る②発症からの年数を数字カード併用で伝える③ご自身が住んでいる場所を地図で探しシールを貼る— では、向けられたマイクに照れながらも各々の伝え方で自己紹介をしてくださる姿に引き込まれ、会場全体が笑顔になりお互いの距離は一気に縮まりました。



第1回目の定例会は、「バーベキューとぶどう狩りを楽しもう!」。心配された雨も上がり、29名が参加されました。ぶどう棚の下で鉄板を囲みながらの食事、そしてぶどう狩りと自然豊かな山梨の恵みを堪能しながら楽しく交流ができました。同じ失語症のある方々に会い「独りじゃない。(会に参加して)ためになった。」と感想を話してくれた参加者もいました。

「ふじやま」の活動に参加する度に、地域に戻られた失語症のある方・ご家族にとって友の会の存在の大きさや活動の必要性が高いと感じ、背中を押されている想いになります。

「生活の中に感動と喜びを〜ここからはじまる地域とのつながり〜」をスローガンに、職能団体の責任として全県下へ活動を広げながら失語症のある方々の出番作りと友の会活動の活性化を図っていきたく思います。当事者・ご家族の期待に応えられるようしっかりと「ふじやま」を軌道に乗せていきたく思います。



失語症友の会「ふじやま」
ロゴマーク